



“よねやま”から広がる新しい世界 ⑪ 寄付に込める思いと願い



交野 R C
(第 2660 地区 大阪府)

元クラブ会長
安養寺敏彦 さん

人とのつながりを大切に

チョウユウアン
張虞安君の世話クラブを引き受けることになったのは、地区からの依頼がきっかけでした。当時会長だった私が承諾したのですが、引き受けてみると、張君は非常にまじめで礼儀正しい好青年でした。ロータリーの活動にも熱心で、例会が終わった後も、いつも残って話し込んでいました。彼は“奉仕”という概念を、日本で知ったのでしょ。う。「ロータリーを通じて、日本のことがますます好きになった」と言っていました。

張君は、近畿大学大学院で博士号を取得し帰国しましたが、その後すぐに研究のために渡米し、折に触れ、近況を知らせてくれました。私はクラブのホームページを管理していますので、張君から写真やメールが届くと、ホームページに載せて、会員に知らせています。彼に子どもが生まれた時、「息子の名前に、安養寺さんの“養”の一字をいただきました」と連絡をくれて、うれしく思ったものです。今、思い返してみても、張君は、人とのつながりを大切に、とても律義な青年でした。

突然届いた寄付の申し出

奨学期間が終わると音信不通になる奨学生が多い中、張君は忘れず連絡をくれていましたが、引っ越しのせいか、彼ともしばらく連絡が途絶えていました。それが2007年の10月、突然、彼から「寄付を送りたい」と連絡が来て、大変驚きました。学友からそのような申し出を受けたのは初めてのことで、最初はどこに寄付したいのか、その意図もわかりませんでした。彼は「お世

話になった恩返しをしたい」と、米山記念奨学会への寄付金1,000ドルをクラブの口座に送金してきたのです。それから毎年欠かさず寄付を続け、この8年余りで、彼の寄付額は累計150万円以上になりました。

これは並大抵のことではなく、われわれロータリアンでもそうそうできることではありません。彼は今、アメリカのボストンで、外資系製薬会社に勤めているそうです。順調な暮らしぶりは間違いないでしょうが、大金を手に入れているわけではないと思います。子どもにもまだお金がかかるでしょうし、自分自身にも必要な時期のはず。そのような生活の中で、こうして何年も寄付を続けていることが、とてもすごいと思うのです。

いつか再会を願って

奨学生には与えることが当たり前で、返ってくるとは思っていませんでした。張君からの寄付は、ただただ驚きであり、とてもうれしいことでした。とはいえ、彼自身は以前と変わらないようで、今年度の地区大会の「財団・米山顕彰者昼食会」に招待された際も、「多額の寄付をしている方がおられる中で、自分が招待されるのは申し訳ない」と辞退したそうです。謙虚な彼らしい理由だと思えます。残念ながら、張君とはメールや手紙のやり取りだけで、卒業後は一度も会ってはいませんが、機会があれば、ぜひ彼をボストンに訪ねてみたいと願っています。張君のさらなる活躍を、心から祈念しています。



米山奨学生当時、交野 R C の例会に出席する張虞安さん(右から二人目)

米山記念奨学事業は、ロータリアンからの寄付によって支えられていますが、近年、学友からの寄付も増えています。「お世話になった恩返しに」「後輩を応援するために」との思いの込められた学友からの寄付金は総額 2,500 万円以上になります。今回ご紹介する張^{チョウ ユウアン}虞安^{ユウアン}さんもその一人で、2007 年から毎年、10 月の米山月間に、アメリカからの寄付を続けています。張さんと、彼の世話クラブを務めた交野 R C の元会長・安養寺敏彦さんにお話を伺いました。



米山学友
張 虞安 さん

出身：中国
奨学期間：1998 - 2000
学校名：近畿大学大学院

ロータリーとは何かを探して

米山奨学生になった時、私はロータリーのことを何も知りませんでした。持っていた英中辞典には、「ロータリークラブは資産階級の組織である」と、ごく簡単な説明があっただけでした。それで「ロータリーとはどういうものか」という答えを探すつもりで、毎回、世話クラブの例会に臨みました。

いつも例会の 30 分前には到着して、できるだけ会員に話しかけ、例会後も誰かと話し合いました。クラブの地域活動や親睦行事に参加し、カウンセラーと会って二人で話したり、クラブからロータリアンの書いた本やロータリーの規定などを借りて読んでみました。そして私は、ロータリーの考え方がとても好きになりました。ロータリアンからは、いつも真実と思いやりの心を感じました。説教ではなく行動と助言で、いつも本気で助けてくれました。この無限の世の中で

はどんなに偉くなっても、しょせんは小さな存在でしかありませんが、ほかの人のために頑張る限り、誰でもひとかどの人間になれるのではないかと私はロータリーの精神の素晴らしさに、心から納得しました。

寄付は、誰かの役に立つ行為

米山奨学金はお金だけでなく、私に尊厳と希望、生きる指針を与えてくれました。ですから、将来は少しでもお返しをしようと心に決めていました。

卒業後、より良い研究環境を求めて渡米し 6 年がたったころ、初めて 1,000 ドルを奨学会に寄付することができました。以来、毎年 10 月の米山月間に送金していますが、寄付することで、自分の精神がリフレッシュされると感じます。寄付は、自分が誰かの役に立ちたいと思った時、本当に簡単に効果的な行為ではないでしょうか。お世話になった一人として、この事業が未永く継続されるよう、累計 10 万ドルの寄付を目指し、今後も支援を続けていきたいと思えます。

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または「よねやまだより」についてのご意見を、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。

Tel. 03-3434-8681 Fax. 03-3578-8281

E メール：mail@rotary-yoneyama.or.jp



ベトナムの学友が旭日小綬章を受章！

米山学友のグエン・トリ・ユンさん（ベトナム／1976 - 79 / 土浦 R C）が、2015 年秋の外国人叙勲で旭日小綬章を受章しました。ユンさんはベトナム初の民間ビジネススクールを設立し日本企業との橋渡しをするなど、長年にわたる日越両国間の経済関係の強化、文化交流および相互理解の促進へ寄与した功績が認められました。現在は J A V I N E T (JAPAN VIETNAM NETWORK) 代表として、両国の文化・経済・科学技術の交流に力を入れています。ユンさんは「今まで私を支えてくださった人たちの素晴らしい出会いに感謝の気持ちでいっぱいです。日本で得た“人づくり”の大切さをベトナムに伝えています。この厳しい時代を乗り越えて、より人間中心の社会の実現に貢献したいと考えています。米山奨学金の理念に、敬意と感謝の意を表します」と、コメントを寄せてくれました。

